



岐阜米穀(株) メールマガジン

新年明けましておめでとうございます。
旧年中は大変なご愛顧を誠にありがとうございました。

2023 年は人の動きも多くなり世情も明るく、良い 1 年にしたいですね。

さて、今年から岐阜米穀の子会社でソーラーシェアリングを始めます。
きっかけは、賃借工場が相続で農地の購入も要望されたのでした。

日本のソーラーシェアリングの現状と、岐阜米穀のこれからを、参考にさせていただけないかと、年の初めに整理してみました。

農林水産省の営農型太陽光発電の許可件数は毎年確実に増えていますが、令和 2 年度のソーラーシェアリングの発電比率は 2%程度しか無いのです。

転用許可のハードルが高い、設置費用が他の太陽光発電よりも大きい、系統制約が全く解消しない、FIT が縮小する中で採算が取れない、金融機関が融資をしてくれない、設備設計と農作物の生育に関する知見が不十分、農業委員会がなかなか認めてくれない、周囲の住民の協力が得られにくい、地域の理解が進まない……などです。

この中で、ソーラーシェアリングを始めるには、農業委員会が認めてくれない、金融機関から融資が受けられないことは多いようですし、隣接の地権者や地元関係者の理解というのも重要な要素になるのです。

～ソーラーシェアリングは何のために～

私たちがのような素人が越えなければならないことは、農業生産に必要な知識と技術、そして農機具を動かすなどのチャレンジ精神なのです。

そして何よりも夏の暑さと冬の寒さに負けない気力と体力も必要になります。

私達は、三年は耕作放棄地を貸してもらい、2mにもなる雑草との戦いや、何年も積み重なった粗大ごみの山のような整理と、作物が育つように土地を元に戻す作業をしてきました。

これから予想される食糧危機と、エネルギーから起因してくる温暖化対策の解決策や、電気の供給などへの一助になればと思っています。

環境省や農水省日本のエネルギー再生と、食糧による持続可能性に向けて、食糧自給率37%の日本で、食糧自給率を少しでも上げる足がかりに成ればと思うばかりです。

この転換期には近未来の問題を、目標に向けて進めることを全国に発信していく計画です。ソーラーシェアリングと農業のコラボすることが、これまで岐阜米穀㈱は米という事業で118年間お世話になってきました。恩返しとして、次に向かって行きたいのです。

◎ソーラーシェアリング営農型太陽光発電設備下農地での栽培作物順位

【野菜 35%いも類 18%】小松菜、白菜、ねぎ、かぼちゃ ふき、わらび

【果樹 14%】柑橘、ブルーベリー、柿、ぶどう

【観賞用植物 30%】さかき、しきみ、せんりょう、たまりゅう等

【その他 12%】しいたけ、きくらげ 茶 イタリアングラス、レンゲ

【土地利用作物9%】米、麦、大豆、そば

オートミールの販売もお陰様で順調に推移しております。

今年の新商品はカップ麺に混ぜるオートミールを発売いたします。